第３０回「鉄道の日」記念
中部の鉄道フォトコンテスト　審査結果発表

【審査委員長紹介】

写真家　杉本 恭子 氏

プロフィール：１９５７年東京生まれ
大手コンピュータ会社でシステムエンジニアとして勤務の後、故竹内敏信氏に師事する。
数々のコンテストに入選して、新聞や雑誌で取り上げられる。東京、名古屋、長野を拠点に
写真教室、撮影会、地域おこしにも携わる。個展、著書多数。ＮＨＫ出演。
著書に「撮り歩き旅の写真術」（新星出版社）、「私の写真入門」（文芸社ビジュアルアート）
及び「デジタル一眼レフキレイ撮りマスターブック」（永岡書店）などがある。
株式会社ＰＨＯＴＯ ＪＯＹ 代表取締役
公益社団法人日本写真家協会会員
公益社団法人日本写真協会会員

《 審査の様子 》

【 総　評 】

「中部の鉄道フォトコンテスト」開催おめでとうございます。
今回で８回目の審査をさせていただきました、杉本恭子です。
入選されました皆様方、おめでとうございました。
このフォトコンテストは、「乗って楽しんで撮影して」ということがテーマとなっています。乗った車内から外を見て撮影する、車内の様子を撮影する、駅構内から撮影するということが応募の条件となっています。ですから、通常の線路の外から撮影する撮り鉄とは違う写真になります。
コンテスト独自の応募条件にも関わらず、被写体のバリエーションが多く、大変興味深く楽しく審査をさせていただきました。電車に乗っているときに偶然見つけたもの、狙って撮ったもの、さまざまな写真がありましたが、しっかり撮れています。
グランプリの作品は、コロナ禍ではなかなか会えなかったお子さんやお孫さんと、久々に会えたうれしさやまた会えるという期待が込められています。列車は人と人を繋ぐ、とても大切なインフラであることがわかりますね。普段通りということが、いかに大事であるかをこの写真は伝えてくれています。
他の作品も、写真を見ながらまるでそこにいるような雰囲気にさせてくれる写真が多くありました。
旅情あふれる四季折々の風景と列車の写真、列車と人びとの関わり合いなど、心に響く写真もたくさん寄せていただきました。ありがとうございました。そして、お送りいただいた写真には、いつも心のこもったコメントがあります。そこには、皆さんの気持ちがあふれています。いつもコメントを読みながら丁寧に審査させていただいています。素敵なタイトルで入選する場合もあります。気持ちを込めて写真を撮れば、その気持ちは第三者にも伝わります。「写真は写心」です。また、素敵なお写真をお待ちしております。ありがとうございました。

グランプリ

『また会おうね』
高橋　正昭　様
（近畿日本鉄道　名古屋線）

撮影者コメント：夏休みに再会した元気でかわいい孫たちの見送りシーンを列車内から撮影しました。次に会うのが楽しみです。

審査員コメント：コロナ禍でなかなか会えなかったお子さんやお孫さんと、久々に会うことができたうれしさや、また会えるようになったねといった期待があふれている、心温まる写真です。

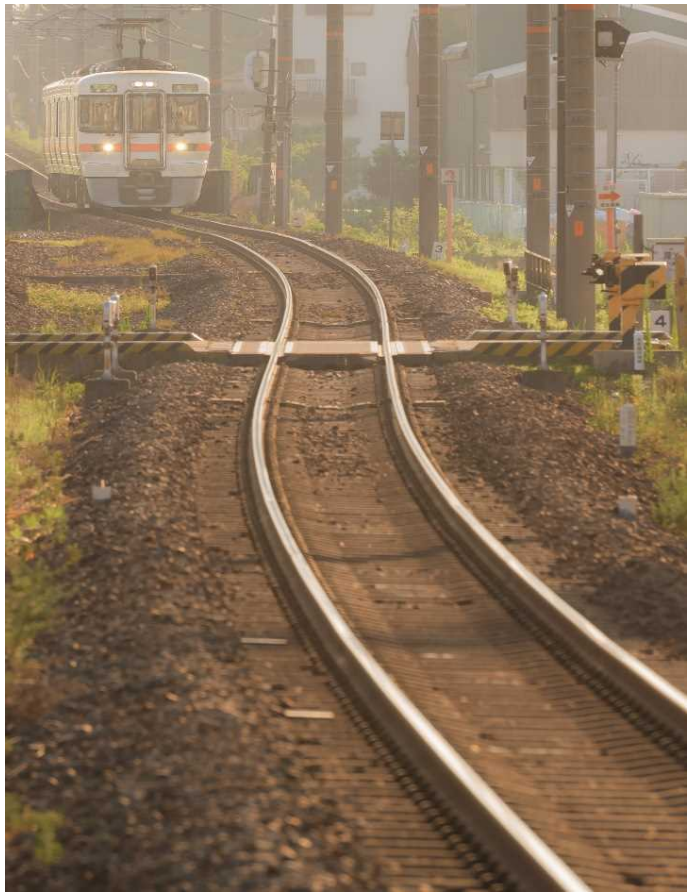
金　賞

『煙を吐いて』
小西　直昭　様
（大井川鐵道　大井川本線）

撮影者コメント：Ｃ１１がホームに入ってくるところを撮りました。

審査員コメント：ＳＬのヘッドマークの“さくら”と背景の桜が、うまくコラボした写真ですね。いい場所からいいタイミングで撮影されました。煙や古い駅舎も入り、いいバランスになりました。

銀　賞

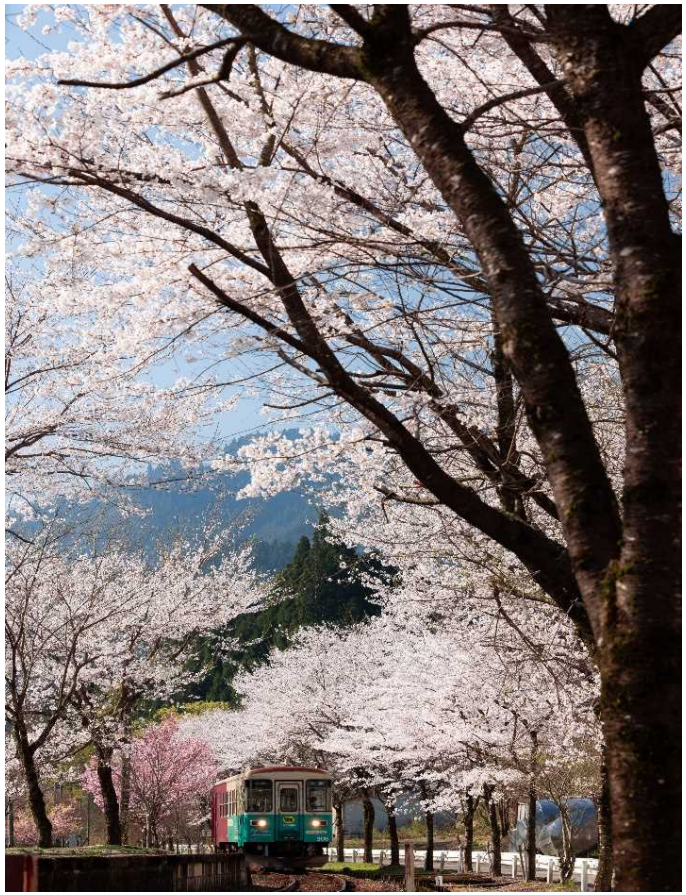


『緩やかな朝』
井上　美希　様
（東海旅客鉄道　関西線）

撮影者コメント：朝もやに包まれながらガタンゴトンと電車が来ます。ふんわりとした朝のひと時。優しい時間でした。

審査員コメント：ふんわりとした朝靄の中の光が柔らかくていいですね。Ｓ字の構図の線路を見事に生かした写真になっています。列車の手前の線路を長く入れたことで、遠近感のある写真になりました。

銅　賞



『終着駅』
永田　健宏　様
（長良川鉄道　越美南線）

撮影者コメント：名古屋駅・美濃太田駅と列車を乗り継ぎ、５時間以上かけて向かった先には美しい駅が待っていました。思わず息を止め、夢中でシャッターを切りました。列車で苦労して訪れたからこそ、より大きな感動を味わうことができました。

審査員コメント：画面内に大きく桜の木を入れて、春のイメージを力強く表現していますね。５時間もかけて撮影したこの一枚に、気持ちがあふれています。列車を小さく下に入れたので、とても可愛らしい雰囲気になりました。

入　選

『ワクワクカーブ』
金原　智　様
（名古屋鉄道　犬山線）

撮影者コメント：カーブを走ってくる列車の姿はとてもカッコイイです。

審査員コメント：タイトルが面白いですね。犬山の鉄橋を渡ってくるカーブのところで、タイミング良く撮影されました。名鉄の真っ赤な車体の色が、背景の紅葉に見事にマッチしましたね。

入　選

『またおいで』
山本　邦治　様
（天竜浜名湖鉄道　天竜浜名湖線）

撮影者コメント：ゆりかもめで有名な浜名湖佐久米駅へ。
見物人ゼロになったのを見計らって、鳥のお世話をされている方とお話し。それぞれの個体をほぼ識別されているそう。鳥たちとともに華やかに見送ってくださいました。

審査員コメント：この場所は、カメラマンの有名な撮影地にもなっていますね。名物おじさんが、カモメに餌を与えていて、頭にもカモメが乗ってきます。ほぼホームから撮影することが多いのですが、車内からなので、より個性的な狙いになりました。

入　選

『花桃のトンネル』
みみこ　様
（西日本旅客鉄道　越美北線）

撮影者コメント：花桃が咲くことで有名な九頭竜線勝原駅。
この駅に近づいて列車は、花桃のトンネルを潜り抜けて駅に到着します。

審査員コメント：望遠レンズで狙ったことで、手前の花をぼかすことができました。花のトンネルから、赤い可愛らしい列車を捉えて、遠近感も出て素敵な写真になりました。

入　選

『みどりが白に染まる』
吉村　俊彦　様
（樽見鉄道　樽見鉄道線）

撮影者コメント：この日はクリスマスイブ。前夜から降った雪は辺り一面を白く染め、木々の枝や山も白で彩られていました。白の世界を際立たせるために、列車は脇役。でもキラッと光るヘッドライトが存在感をしっかり出してくれました。

審査員コメント：樽見鉄道は、冬の列車の撮影が楽しいです。雪深いので、列車が雪をかき分けていくシーンなど、とても迫力が出ますね。白銀の世界に水色の車体がとても素敵です。

入　選

『列車出発　安全ヨシ！！』

太田　健一　様

（東海旅客鉄道　東海道線）

撮影者コメント：安全第一で行われる列車の運行、今日も１つ１つ安全確認を行いながら列車が走っている。「安全確認ヨシ！！」そして「行ってらっしゃい。」

審査員コメント：車掌さんが、しっかりと安全を確認しているシーンです。指差し呼称をしています。大切な仕事の瞬間をしっかりと捉えました。望遠レンズを用いて、手前と奥をボカし、主役を強調しました。

入　選

『霧雨の中の３編成』

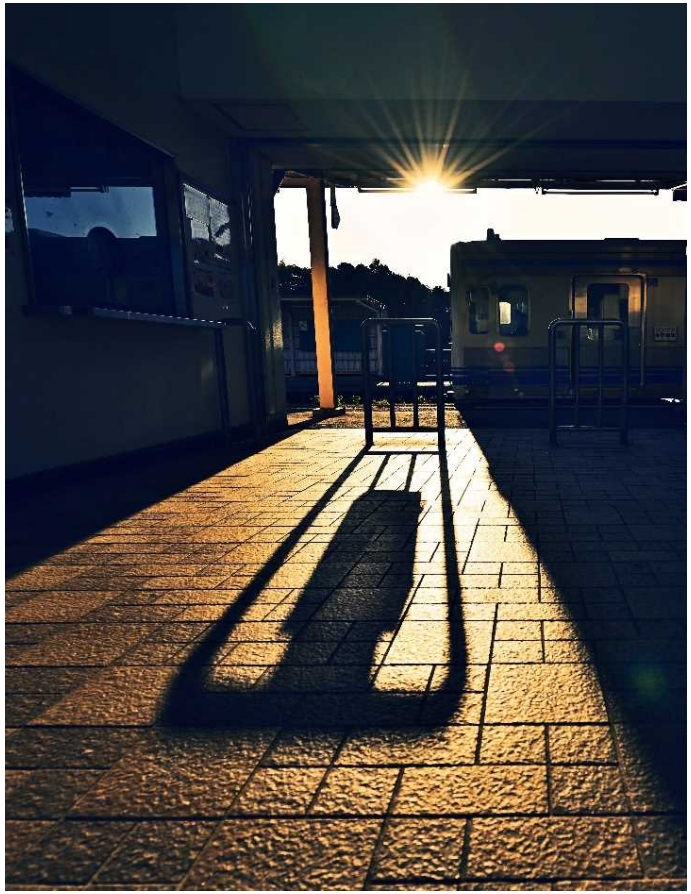
田中　悠翔　　様

（東海旅客鉄道　東海道線）

撮影者コメント：枯れた田んぼに霧雨降る季節に、引退を控えたキハ８５系の車窓から、２編成の東海道新幹線がすれ違う様を撮影しました。車窓の雨粒で３編成目を表現しました。

審査員コメント：この写真は、コメントを読んで選ばせていただきました。引退を控えたキハ８５系の車窓からということで、列車が大好きなんだなあと思いました。乗っている列車の窓の水滴はわかったのですが、窓枠を少し入れるとより良かったと思います。

審査員特別賞



『出発進行ヨシ』

宮原　千逸　様

（伊勢鉄道　伊勢線）

撮影者コメント：太陽と列車の位置のタイミングを計りながら数日間待ちました。
早朝は気分が「ノリノリ」です。

審査員コメント：光の位置と列車の位置を、しっかりと確認しながら撮影した一枚ですね。数日通われたということですから、頑張ったなあと思いました。太陽の光芒もしっかりと入り、印象的な写真です。

10月14日は鉄道の日
テッピー&テッピーナ
「鉄道の日」制定30周年